1) チプと呼ばれる丸木舟。写真左のものは大型の10人乗りで、大きさでは日本一だそう。
2) 「メノコイタ」と呼ばれるまな板。チタタプ作りの際は平らな部分で刻み、できたものを丸い窪みに移す。

NIBUTANI AINU CULTURE MUSEUM

平取町立二風谷（ニブタニ）アイヌ文化博物館

平取町二風谷55　TEL.01457-2-2892　9:00～16:30
4月16日～11月15日は無休、11月16日～4月15日は月曜休、
12月16日～1月15日は休館。
一般400円、小・中学生150円

北海道の豊かな自然の中で暮らし、独自の文化を築き上げてきたアイヌの人々。彼らの文化は地域による細かな違いがあり、多様性があることは前ページまででお伝えした通り。アイヌの文化、そしてアイヌの多様性に触れるには、何よりも現地に行って観て触れるのが一番。展示品の一つ一つに彼らの物語があったはず。その物語に思いを馳せてみてはいかがだろうか。ここでは、道内に多々あるアイヌ文化に関する施設の中から、ゼロワン編集部が厳選した施設を紹介する。

取材・文／総合商研（野路 敬生、賀好 史織、土居 功）　撮影／総合商研（前澤 良彰）

※こちらの情報は「北海道発見マガジンJPO1」から転載したものです

AINU
CULTURE & ART
文化施設

アイヌ文化施設 CULTURE & ART

圧倒的な数の展示物が並ぶ館内。どの展示物もきめ細やかな手仕事でできている。

展示の量にも質にも圧倒される博物館

道内にはアイヌの文化を色濃く受け継いでいる地域がいくつかある。その中の一つ、日高地方の平取町にある平取町立二風谷アイヌ文化博物館は、「貴重なアイヌ文化を正しく受け継ぎ、未来へと伝えていくこと」をコンセプトとし平成4(1992)年に開館。沙流川流域のアイヌ文化を中心に紹介している施設だ。同館はアイヌ集落を再現した「二風谷コタン」の中にあり、野外施設として、復元されたアイヌの住居「チセ」なども見学が可能となっている。

4つのブースからなる館内には、貴重かつ大量の展示物が待ち受け、見る者を圧倒する。衣服や狩猟道具、家庭での生活道具はもちろん、カムイノミ（カムイへの祈りの儀式）に用いる祭具まであり、アイヌの人々の暮らしぶりや世界観を実際に見て身近に感じ取ることができる。ビデオステージはユカラ（英雄叙事詩）を聞くことができるほか、数多くの視聴覚資料や関係図書等も収められている。

※こちらの情報は「北海道発見マガジンJPO1」から転載したものです

AINU
CULTURE & ART
文化施設

アイヌ文化施設 CULTURE & ART

SAPPORO AINU CULTURE PROMOTION CENTER
SAPPORO PIRKA KOTAN

札幌市アイヌ文化交流センター サッポロピリカコタン

札幌市南区小金湯27　TEL.011-596-5961
8:45~22:00(展示室と庭園は9:00~17:00)
月曜・祝日休、年末年始休、施設最終火曜休
入館無料(展示室観覧料は有料、一般200円、高校生100円、中学生以下無料)

アイヌ文化に触れることができる

札幌中心部から車で約40分の自然豊かな小金湯地区にある札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」。施設名はアイヌ語で「札幌の美しい村」という意味があり、アイヌ民族の生活や歴史、文化を楽しみながら学ぶことができる。展示室には約300点ものアイヌ文化に関する展示品が並んでおり、実際に手に取って見ることも可能。屋外にはチセ(家屋)も再現されている。

▲サケの皮で作られた靴。大人用の靴を一足作るのに、4匹分ものサケの皮が必要なのだそう。

▲樺太アイヌの女性が防寒用として着ていたという、サケやマスなどの魚の皮で作られた服「チェプウル」。

HOKKAIDO MUSEUM OF NORTHERN PEOPLES

北海道立北方民族博物館

網走市潮見309-1　TEL.0152-45-3888
9:30~16:30(7~9月は9:00~17:00)
月曜休(祝日の場合は翌平日休、7~9月と2月は無休)、年末年始休
一般550円、高校生・大学生200円、中学生以下・65歳以上無料

▲真鍮製の樺太アイヌの耳飾り「ニンカリ」。

北方民族に特化した博物館

サハリン(樺太)アイヌやエスキモーなど、北方の民族に関する資料の展示に特化している博物館。民族衣装や装飾品も多く展示されており、華やかな色使いや細やかな刺繍などを見るのも楽しい。樺太アイヌの民族楽器「トンコリ」を体験できるほか、アイヌの民族衣装を着て記念撮影をすることも可能。

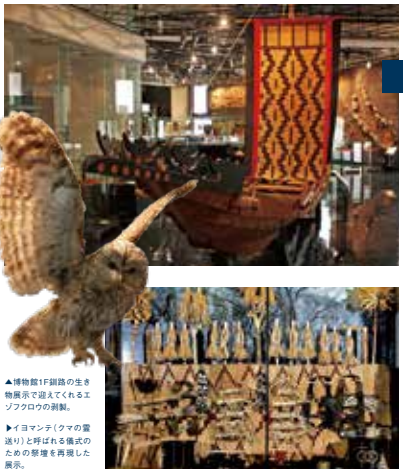
◀北海道アイヌの男性衣装「刀掛帯」はアイヌ語でエムンアップと呼ばれ、オヒョウなどの樹皮繊維を編んで作られた。

▲体験コーナーではトンコリ演奏体験や民族衣装着用体験のほか、北方民族の衣装などに使われた動物の毛皮を触ることもできる。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現在は中止しています。

※こちらの情報は「北海道発見マガジンJPOS」から転載したものです

AINU
CULTURE & ART
アイヌ文化施設

アイヌ文化施設 CULTURE & ART



▲博物館1F釧路の生き物展示で迎えてくれるエゾフクロウの剥製。

▶イヨマンテ（クマの霊送り）と呼ばれる儀式のための祭壇を再現した展示。

KUSHIRO CITY MUSEUM

釧路市立博物館

釧路市春湖台1-7　TEL.0154-41-5809　9:30～17:00
月曜休(4月～11月3日は祝日の場合翌平日休)、
11月4日～3月の祝日休、年末年始休
一般・大学生480円,高校生250円,小・中学生110円

釧路の自然と
アイヌの人々の暮らしが見える博物館

釧路地方の自然と歴史を展示する総合博物館。4階「サコロペの人々」では、釧路川流域を生活基盤としてきた釧路アイヌの人々の生活に関わるものから信仰に関わるものまで、多様な資料が展示されている。左の写真にあるイタオマチプはアイヌの人々が用いた船のひとつで、「蝦夷生計図説」という資料の中に記録されているウイマムチプ（交易船）のデザインを基に、北海道ウタリ協会釧路支部（当時）の方々が復元製作したものである。

ASAHIKAWA CITY MUSEUM

旭川市博物館

旭川市神楽3条7丁目（旭川市大雪クリスタルホール内）
TEL.0166-69-2004　9:00～17:00（最終受付16:30）
第2・第4月曜休（祝日の場合は翌日）、年末年始休（6～9月は無休）
一般350円,高校生230円,中学生以下無料

想像以上にグローバルな
アイヌの交易事情がわかる

「アイヌの歴史と文化に出会う」をテーマに、アイヌ文化やそれに関わる資料を数多く展示。中でも、今まであまり知られていなかった「グローバルなアイヌの交易」についてもっと知ってもらいたいというコンセプトのもと、交易に関する展示や資料を充実させている。現在の上川アイヌの方々が製作した作品などもあり、文化の継承も感じられる博物館だ。

◀屋根と壁をクマ笹で葺いて作られた上川アイヌ独特のチセ（家）を再現した展示。チセの中に入ることもできる。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため現在はチセの中に入ることはできません。

◀本州との交易の際、北海道からは本州で高級品とされていたワシ羽が移出されていた（展示されているのは旭川市旭山動物園所蔵のオオワシの尾羽）。

▲タマサイと呼ばれる女性用の首飾り。交易などで得たガラス玉でできており、母から娘へ、姑から嫁へと受け継がれた。

※こちらの情報は「北海道発見マガジンJPO1」から転載したものです

AINU
CULTURE & ART
アイヌ文化施設

アイヌ文化施設 CULTURE & ART

HAKODATE CITY MUSEUM OF NORTHERN PEOPLES

函館市北方民族資料館

函館市末広町21-7　TEL.0138-22-4128
9:00～17:00（4～10月は9:00～19:00）
年末年始休
一般300円、学生150円、未就学児無料

アイヌやウイルタなど北方民族の資料を展示

市立函館博物館が所蔵するアイヌやウイルタなどの北方民族に関する資料を展示。ムックリ製作・演奏体験や北方民族文様の切り紙細工体験なども通年実施。

▶主なコレクションの一つ、アイヌの民族衣装である白布切伏文衣

▲このタマサイ（首飾り）は人類学・考古学・民族学の研究者であった馬場脩氏の旧蔵品。通称「馬場コレクション」と呼ばれ、中には国の重要有形民俗文化財にも指定されているものもある。

OBIHIRO CENTENNIAL CITY MUSEUM

帯広百年記念館

帯広市緑ケ丘2　TEL.0155-24-5352
9:00～17:00（最終入場16:30）
月曜休（祝日の場合は開館）、祝日の翌日休（土・日曜は開館）、年末年始休
一般380円、高校生・65歳以上190円、中学生以下無料

十勝アイヌの文化に触れられる施設

帯広を中心とした十勝の歴史や文化、産業、自然について学べる博物館。常設展示は第1展示室と第2展示室に分かれており、第2展示室の「十勝のアイヌ文化」のコーナーでは史料をもとに復元したイタオマチプ（交易のための板綴り舟）などが展示されている。

▼アイヌ語で「タシロ」という出刀（ナタ）。

▶館内にはアイヌ民族文化情報センター「リウカ」があり、アイヌ文化に関するDVDやCDなどの資料を閲覧することができる。

◀アイヌ語でプクサキナと呼ばれるニリンソウ。アイヌ文化における代表的な山菜で、よく似た毒草のトリカブトと一緒に展示されているので比較できる。

※こちらの情報は「北海道発見マガジンJPO1」から転載したものです

AINU
CULTURE & ART
アイヌ文化施設

アイヌ文化施設 CULTURE & ART

▲アイヌの伝統的な住居「チセ」の内部を再現した展示。

NAYORO CITY MUSEUM

名寄市北国博物館

名寄市緑丘222　TEL.01654-3-2575
9:00～17:00（最終入場16:30）　月曜休、年末年始休
一般220円、65歳以上110円、高校生以下無料

「北国の冬」がテーマの博物館

北国の暮らしや自然に関する資料を中心に展示している博物館。博物館の正面入口にはアイヌにとって村の守り神でもあるシマフクロウのモニュメントが設置されており、我々を出迎えてくれる。アイヌ文化に関する展示コーナーにはチセやアイヌの道具、工芸品などが展示されている。

▲北国特有の道具、雪かき用具などの展示も。

AINU CULTURAL SPACE "MINAPA"

アイヌ文化を発信する空間「ミナパ」

札幌市営地下鉄南北線さっぽろ駅構内
TEL.011-211-2277
（札幌市市民文化局市民生活部アイヌ施策課）
9:00～22:00　入場無料

身近でアイヌ文化に触れられるスペース

札幌市の地下鉄南北線さっぽろ駅構内に、平成31（2019）年3月にオープンしたアイヌ文化を発信する空間「ミナパ」。アイヌ語で「大勢が笑う」という意味を持つ「ミナパ」は、訪れる人々に笑顔になってほしいとの思いを込めて名付けられた。迫力あるメインシアターではアイヌ語による天気予報やクイズなどが上映されている。

▼平取町二風谷の作家、貝澤徹氏の作品であり、ミナパのシンボルオブジェでもある木彫りのシマフクロウは高さ約2.5mの大作。

4人の作家によるアート作品が展示されたコーナーも。写真は故・貝澤幸司氏の作品「ぬし」。

▶モダンなテーブルには18世紀のアイヌ民族の伝統的な生活を再現したCGアニメーションが投影されている。

※こちらの情報は「北海道発見マガジンJPO1」から転載したものです

AINU
CULTURE & ART
アイヌ文化施設

心を彫る。

文様の彫刻は、ある程度下書きはするものの、ほとんどがフリーハンド。カムイ（神）への敬意と使う人への想いを込めながら丁寧に彫りこんでいく。

技を今に伝える現代の作り手たち

「貝沢民芸」を営む貝澤守さんは昭和40（1965）年、二風谷の生まれ。小さいころからものづくりに興味を持ち、先代の父やその弟子たちの仕事ぶりを間近で見ながら、アイヌの伝統的な木彫りの技法を学んだ。現在は二風谷の木工芸やアットゥシ織りの作家たちの団体である「二風谷民芸組合」の代表理事を務めながら、イタを中心に自らの作品づくりに励む。

「行政や地域と共に、「二風谷」の歴史や文化、伝統を受け継いでいくためにも伝統的工芸品の指定は意義深い」と守さん。指定を契機に、アイヌ文様を施した工芸品の需要は増えているという。「平取町アイヌ文化情報センター」内にある「二風谷工芸館」で展示販売される作品の購入数も着実に増えており、守さん自身も国内や海外での物産展や実演販売会などに頻繁に出向き、忙しい日々を過ごしている。

作品づくりに対して守さんは「使ってくれる方に満足してもらえることが大切。美しさや出来栄えを求めて、手を抜かずに作り続けたいです。いつまでもゴールはないので、いいものを一つでも残していければと思っています」と語る。

守さんの母親である貝澤雪子さんは、アットゥシ織りの名人だ。物心ついた時からアットゥシに触れ、10代のころから親類に教わったアットゥシ織りは、77歳になる今でも現役だ。「何年経ってもひと織りひと織りを楽しみながら、なんて素晴らしいんだろうと感じています」と言う雪子さんの手で織られるアットゥシの反物や帯は、京都の呉服店に卸され高値で取り引きされている。

アットゥシはオヒョウの樹皮を剥いで作られる糸を使う。樹皮を糸に加工するまでには大変な手間ひまを要し、「糸づくりが9割」と言われるほどだ。雪子さんは暇さえあれば手を動かし、旅先のホテルや移動中でも糸づくりをしているという。

「孫たちは『おばあちゃんが遊んでいるところを見たことがない』っていうんですよ（笑）。でもおかげで退屈せず楽しみながら続けられています。アットゥシを織るのが幸せで、その気持ちが何年経っても変わらないんです。できる限り続けていきたいですね」。

昔のアイヌは木彫りが上手に出来るようなって一人前と認められたのだとか。意中の女性には、自分で彫ったメノコマキリ（女性用小刀）を贈って求愛したという。

貝沢民芸
平取町二風谷76-7
TEL.01457-2-2584
8:00～18:00　不定休

「美しさを求めて、手を抜かずに作り続けたい」

貝澤 守さん

「貝沢民芸」店主。二風谷民芸組合代表理事。平成22（2010）年に、国土緑化推進機構のコンクール森の伝承・文化部門で「森の名手・名人」に全国で80人のうちの一人に選ばれたアイヌ伝統工芸作家。

守さんが本格的に木工芸を始めたのは21歳から。すでに先代の父は他界していたが「ふるさとの文化を守ることに繋がれば」と札幌での仕事を辞め二風谷に戻り、その伝承に努めている。

※こちらの情報は「北海道発信マガジンJPO1」から転載したものです

AINU
TRADITIONAL CULTURE
アイヌの伝統

アイヌの伝統 TRADITIONAL CULTURE

二風谷の

「受け継いでいる者しか出せない、内面から出る表現を」

貝澤 徹さん

昭和33（1958）年生まれ。明治時代に名工と謳われた曾祖父、貝澤ウトレントクの残した作品を模刻したのをきっかけに、その伝統を引き継ぎながらメッセージ性のある独自の作風を構築。作品は大英博物館にも展示されている。

北の工房 つとむ
平取町二風谷
TEL.01457-2-3660
8:00～18:00
不定休
https://kitanokoubou.jimdo.com/

曾祖父の技を引き継ぎつつ自らの感性をブレンドし、「樹布」等の作品を通じてメッセージを放つ徹さん。「昔、展覧会などに展示してある作品が先祖たちのものばかりなのを見て、現在の作品がないことに違和感を感じた」のが、アイヌ工芸を始めたきっかけ。

熊をあしらったニマ（木鉢）やスウォプ（宝箱）など、徹さんの作品にはどれも手仕事ならではの繊細さが光る。

アイヌの少女を主人公にした人気漫画の中で、登場するアイヌの青年が使用しているものと同じデザインのマキリ。ファンからの問い合わせが多く、製作が追い付かないんだとか。

※こちらの情報は「北海道発信マガジンJPO1」から転載したものです

AINU
TRADITIONAL CULTURE
アイヌの伝統

玉ねぎや桔梗、藍など自然の素材を使って美しい色彩を出す現在のアットゥシ。染めの素材探しや染色も雪子さんが行っている。

「何年経っても、ひと織りひと織りを楽しめるんです」

アットゥシはもとが木の皮とは思えないほどしなやかで通気性が良く、濡れても乾きが早いため、かつてはニシン漁師たちに喜ばれ、交易品としてもてはやされた。

貝澤 雪子さん

昭和16(1941)年生まれ。平成23(2011)年、北海道アイヌ協会より「優秀工芸師」として認定。平成30(2018)年には伝統文化の伝承に力を尽くした個人や団体に贈られる、ポーラ伝統文化財団主催の「伝統文化ポーラ賞」の地域賞を受賞。

作り手たちの想いはあらゆる垣根を越えて

イタもアットゥシも昔とほぼ変わらぬ製法や道具を用いて作られているが、その技術は昔ながらの品に留まらず多彩な作品に生かされ、広がりを見せている。『北の工房 つとも』店主の貝澤徹さんは、イタの伝統を現代風に昇華させた「樹布」という作品を作る。イタに施されるアイヌ文様には魔除けの意味が込められているため、お盆としての他、壁に掛けてお守りとしてのインテリアにもなるよう工夫されたものだが、そんな現代の暮らしに溶け込むような作品の中にも、二風谷という地域や、作り手自身のアイデンティティが宿っている。「現地で受け継いでいる者しか出せない、内面からにじみ出る表現」と、徹さんは二風谷でのものづくりを言い表してくれた。

その精神性や芸術性が地域や国を越えて受け入れられ、また現代の暮らしにも合う品々が生み出されている二風谷の作り手たちによるものづくり。その想いと可能性は、あらゆる垣根を越えて、これからの新たな時代へと広がってゆくに違いない。

アイヌの伝統を織る。

『田沢民芸』の裏にある作業小屋で毎日織り続ける雪子さん。「アットゥシは忍耐力や根性が必要ですよ」と笑うが、雪子さん自身はこれまでやめたいと思ったことは一度もないという。

※こちらの情報は「北海道発信マガジン JPO1」から転載したものです

AINU

TRADITIONAL CULTURE

アイヌの伝統

アイヌの伝統 TRADITIONAL CULTURE

イタに見られる二風谷の伝統的な文様

アイヌ文様にはさまざまな種類があるが、中でも代表的なモチーフが下の4つ。ちなみに「ノカ」とは「形」という意味。これらの伝統的な文様を基本に、それぞれの地域の歴史や作家の個性が融合して、美しい作品が生み出されるのだ。

モレウノカ

モ＝静か、
レウ＝曲がる、で「静かに曲がる形」という意味の渦巻きの形。

ラムラムノカ

ラムラムとは「うろこ」のこと。
他の文様の間を埋めるように彫られる装飾。

シクノカ

シクは「目」という意味。イタでは主に中央に配置された作品が多く、「神の目」であるとも言われている。

アイウシノカ

アイ＝とげ、ウシ＝～がつく、で「とげのある形」。とげは、魔物が寄り付かなくなるようにする意味がある。

※こちらの情報は「北海道発信マガジンJPO1」から転載したものです

AINU

TRADITIONAL CULTURE

アイヌの伝統

イヨマンテリムセ

熊送りの儀式「イヨマンテ」の際や大勢の人が集まったときに踊られていた輪踊り。

ハララキ

湿原で遊ぶ鶴のようすを表した踊り。鶴の鳴き声と躍動感が印象的だ。

世界が注目する アイヌ舞踊

アイヌの伝統舞踊は北海道が誇る伝統芸能。
現代に継承し、ファンを増やし続けている伝統舞踊に注目！

フンペリムセ

フンペとはクジラのこと。座礁したクジラにより飢餓から救われた集落の感謝を表した、ストーリー性のある踊り。

多様性に富むアイヌの舞踊

アイヌ民族の伝統舞踊は、たくさんの種類がある。輪になって踊るもの、神々への祈りを表したもの、遊びの要素を含んだもの、悪い神を追い払う儀礼から生まれたもの、豊漁や豊猟の祈願、労働や動物の動きを表したものなどがある。また振り付けも勇壮なもの、優雅なもの、ユーモラスなものなど多彩で、ストーリー性のあるミュージカル風なものもあり、分かりやすいのも特徴だ。なお、ほとんどの場合、楽器の伴奏はなく、歌と手拍子に合わせて踊られる。また、地域によって歌詞やメロディ、振付や曲の速度が異なることもあるのが興味深い。

現代では伝統舞踊を伝統儀礼とともに保存・伝承していこうという活動が盛んになってきている。道内には数多くの伝承団体があり、その中の17の保存会が伝承している伝統舞踊が国の重要無形民俗文化財に指定された。また2009年9月30日、ユネスコ無形文化遺産に「アイヌ古式舞踊」が登録され、世界から注目される伝統舞踊となっているのだ。

クリムセ

弓の舞。狩人が山に入ったが、鹿が遠くの音が気にすぎて撃つことができなかったという物語からできたと言われている。

フッタレチュイ

大風の日に松の木の枝葉が前後左右に揺れ動くようすを黒髪の踊りで表現。この踊りのため、ショートヘアにできないそうだ。

シチョチョイ

秋の収穫を喜ぶ踊り。穀物の籾作作業の一連のようすが踊りになっている。

取材協力
一般社団法人 札幌大学 ウレシパクラブ
札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1 札幌大学内 7513号室
TEL.011-852-9335
urespa@sapporo-u.ac.jp

※こちらの情報は「北海道発展マガジンJPO5」から転載したものです

AINU
TRADITIONAL CULTURE
アイヌの伝統

エムシリムセ

儀式や祭祀のときに踊られる、神々への奉納の踊り。悪い神に対するお祓いの踊りとも言われている。下のような振り付けの違いのほか、歌の内容や速度までも地域による違いがある。鑑賞の際に注目すると、より楽しめる。

ウレシパクラブから
アイヌ舞踊を学ぶ

上川と白老で異なる
剣の舞「エムシリムセ」

札幌大学ウレシパクラブの学生たちは、各地の伝統舞踊も学習している。週2回の活動でも練習をし、合宿では道内各地の保存会を訪問し舞踊を学んでいる。その集大成が年に一度、開催される「ウレシパ・フェスタ」で、ステージでは伝統舞踊のほか、歌や楽器演奏も披露している。学生たちは道内各地の舞踊を体得しているため、同じ演目でも地方による舞踊の違いを踊り分けられるのである。そのため、プログラムには「エムシリムセ（上川）」「エムシリムセ（白老）」と、舞踊演目の横に地名が入っているのだ。

このパネルで紹介したアイヌの伝統舞踊は今回の取材でおじゃました「ウレシパ・フェスタ」のほか、道内の儀礼や祭り、イベント等で披露されることが多いので、ぜひ各地で鑑賞して、地域による違い、アイヌの多様性を楽しんでいただければ幸いである。

取材協力／近藤聖子さん（4年）、新谷日向さん（白老の着物）、岡本朋也さん（3年）、新谷日向さん（白老の着物）

基本ステップの違い

扇りの見せ場、2人が交差する入りの部分

※こちらの情報は「北海道発信マガジン JPO1」から転載したものです

AINU
TRADITIONAL CULTURE
アイヌの伝統